

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 教員研究費（森林文化アカデミー）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林文化アカデミー 総務課 電話番号：0575-35-2525

E-mail：c21907@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,385 千円 (前年度予算額：5,869 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,869	0	0	0	0	0	0	0	5,869
要求額	5,385	0	0	0	0	0	0	0	5,385
決定額	5,385	0	0	0	0	0	0	0	5,385

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

森林文化アカデミーは、実践的な専修教育・学習機関であるため、高度な教育研究を積極的に実施するとともに、特に森と木のクリエイター科教育は地域の森林・林業が抱える諸問題を解決する指導者育成を目的としている。そのため、教員はより最新で実践的知識・技能を絶えず取得する必要があり、また学生の教育フィールドの開拓が必要とされる。それゆえ教員自身も研究を通じての自己研さんが必要である。

(2) 事業内容

森林文化、里山、人工林、山村活性化、木造建築、ものづくり分野において、県内外の最新あるいは先進事例を調査研究することにより、その成果を学生や地域に還元し、学校全体の資質向上を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

森林文化アカデミー運営に関わることのため、県において全額負担することが妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報酬	216	調査研究協力補助等
共済費	1	労災保険料
旅費	1,462	調査旅費
需用費	1,731	消耗品費 1,516 (研究用資材)、修繕料215 (機械器具修繕)
通信運搬費	321	機械・研究機器等修繕
使用料	276	高速道路利用料等
備品購入費	1,072	調査研究機器等
負担金	306	各種学会・研究会参加負担金
合計	5,385	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

教員資質は常に向上させる必要があるため今後も継続する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県の林業技術者育成の中核機関として、優秀な林業従事者を林業界へ供給するため、あるいは地域の森林・林業が抱える諸問題を解決するため、より最新で実践的知識・技能を絶えず取得する必要がある教員の資質を向上・維持を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標	
					(R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

教育指導レベル等の指標化は困難

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>研究成果は、毎年度のカリキュラム編成に反映され、新たな知見を加えた授業が行われている。</p> <p>学生教育にとどまらず、地域社会や伝統技術の継承等、社会的な成果も上がっている。</p> <p>例：空き家対策と古民家再生既存建物の改修・利活用をするために、調査・設計の際に考慮すべき要点に配慮し、実際の現場で実測調査、改修プラン設計を行った。</p>
令和 3 年度	<p>研究成果は、毎年度のカリキュラム編成に反映され、新たな知見を加えた授業が行われており、学生教育にとどまらず、地域社会や伝統技術の継承等、社会的な成果も上がっている。</p> <p>例：子育て支援施設内の木育広場の設置のため、地域材を活用し自然のままの形を活かした玩具を製作し、住民と里山の交流を図る活動を行った。</p> <p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>
令和 4 年度	<p>研究成果は、毎年度のカリキュラム編成に反映され、新たな知見を加えた授業が行われており、学生教育にとどまらず、地域社会や伝統技術の継承等、社会的な成果も上がっている。</p> <p>例：シデコブシの自生地での萌芽更新の研究を行い、同樹種の保全活動に貢献した。</p> <p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	森林文化アカデミーは、県の林業技術者育成の中核機関。有能な若手林業従事者等を育成するには、豊富で高度な知識を有する教員が必要。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	森林・林業・山村づくり・木造建築・ものづくり等に関する情報・知識が蓄積され、公共団体からも講師依頼、各種委員会委員の委嘱を受けている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	・業界から求められる知識・技術を持った人材を育成するために、業界のニーズを常に把握し、その教育を提供できるよう委員会で協議、研究している。 ・国等他期間との共同研究を行うことで、経費の節減にも努めている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 林業機械の進化、高度化が進む中、教育側も常に進化、高度化する必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 森林技術者の養成機関として、優秀な林業技術者育成、森林文化、里山、人工林、山村活性化、木造建築、ものづくり分野に優れた人材を供給するため、より一層の教育水準の向上を図る。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	
補助事業者 (団体)	(理由)
補助事業の概要	(目的) (内容)
補助率・補助単価等	定額・定率・その他 (例：人件費相当額) (内容) (理由)
補助効果	
終期の設定	終期〇〇年度 (理由)

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

補助金交付実績 (単位：千円)	H30年度	R元年度	R2年度

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none">取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none">事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none">事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none">事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none">事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none">継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
